

第17回 松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック

やさシティおもてなシティ推進会議

- 1 日 時 令和3年5月28日(金) 15時15分～16時15分
- 2 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
- 3 出席者 委員11名のうち7名出席
- 4 傍聴者 2名
- 5 会議経過 (1) 開会 15:15
(2) 挨拶
傍聴確認(事務局より傍聴者2名と報告)
議事録署名確認
(名簿順につき岡本委員に依頼→了承)
資料確認(配布漏れなし)
(3) 議事
①松戸市事前キャンプ受入の現状について
②東京2020オリンピック聖火リレーの実施について
(4) 閉会 16:15

6 議事概要

○長江会長

皆さん、こんにちは。本日はご出席ありがとうございます。本日の会議の円滑な運営につきまして、委員の皆様のご協力をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、皆様に配られています会議次第に沿いまして説明させていただきます。

新型コロナウイルスの関係もございますので、議事につきましては一括して事務局よりまずご説明を先にさせていただきます。その後、委員の皆様方からご意見をいただきたいと思います。

それでは、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局から一括して説明)

○長江会長

ありがとうございました。

それでは、ただいま事務局から説明していただいたんですけれども、委員の皆様方からご意見をいただきたいと思えます。

ご質問でも構いませんので、皆様から一言ずつでも結構ですから、ご意見をいただきたいと思えます。

それでは、松戸市スポーツ協会のほうから、岡本委員から何かございましたらよろしくをお願いします。

○岡本委員

現在、世界が本当にどうなるのか、という状況で、開催に向けて何とか感染が落ち着いてワクチンはもちろん進んでいくと思えますので、国民が納得できるような形で開催できたらなというふうに感じております。

事前合宿の関係は、事務局も今まで一生懸命苦勞されてきたと思えますが、こういう状況は仕方がないなど、残念に思えます。

以上です。

○長江会長

ありがとうございました。

それでは、流通経済大学の西機委員の方から質問やご意見はありますか。

○西機委員

先ほど、この会議が7年ということ、それだけ長くやっていたんだと改めて思う中で、ラグビーのワールドカップがあって、それに関わっていた関係から、レガシーということが当初すごく言われていて、最近では、開催するかしないかという議論になって、どうしてもレガシーというところまで議論というか、やることの意味あるいは関わることの意味みたいなことがあまり議論されていないというのが残念だと思えます。やっぱり開催地とか、直接的にオリンピックに関わらないけれども、どうやってレガシーを残していくかとか、この地域に対して何かプラスな部分を残していくかということ、ここでは、それが目的だったと思えますので、今回、おっしゃられたように、聖火リレーの実現のためにボランティアを集めたりとか、警備のことだったりとか、今回もキャンプのための受入れのためとか、かなりいろいろな作業を皆さんがされて、マニュアル化されたりとか、手続を踏まれたりとか、ある意味、失敗もされたりとかという部分があると思うんですね。ラグビーのワールドカップでも過去の大きな大会でもそうなんですけど、やっぱりそういった開催までの手前の作業のプロセスでやったことを、いかに蓄積させていって、次のそういった機会のときに生かすかというところが、あまり見えていない部分で、レガ

シーとして必ず残っていきますので、ラグビーのワールドカップもやっぱり組織委員会が解散した後に、そこで蓄積されたナレッジトランスファーをどうやってほかのところに生かしていくのかというのが、すごい重要なレガシーだと思うんですね。ですから、ここまでやられた作業というのは、どういう状況になろうと無駄にはならないと思いますので、それを無駄にしないためにも、先のことも考えて、その辺のナレッジトランスファーをどういうふうにしていくのかということ、今だからこそできる準備だと思いますので、そこは状況が変わってもそこは変わらないんじゃないかなということはおききたいなというふうに思います。

○長江会長

いろいろな経験をきちっと蓄積していくという、振り返りも含めた形で残していくということの方向性ということで、大変貴重なご意見、ありがとうございます。

それでは、須田委員のほうからよろしくお願いします。

○須田委員

これまでいろいろ努力をされてきて、それから、ドミニカ共和国であれ、ルーマニアであれ、受入れという前提の中で、応援団であるとか、様々な取組をされてきたと思います。きっとオリンピックは行われるだろうという前提の中で、そういうものが行われているときも、啓発活動は続けていただいて、先生からもお話があったように、松戸市民、これがホストタウンで応援していくことの啓発活動は継続して続けていっていただきたいなと思います。そして開催した場合には、日本選手団を応援するのはもちろんのこと、ホストタウンに対しての応援というのもしっかりとやっていければいいかなというふうに思っております。

以上です。

○長江会長

ありがとうございます。応援していく気持ちと、それから、そういうつながりを大切にしていくという形でご意見をいただきました。

それでは、松戸商工会議所の薄葉委員からお願いいたします。

○薄葉委員

報告を聞いて、一生懸命、その時点で最善のことをやっているなと思いました。そして、西機委員もおっしゃったように、大会が終わった後も含めて、これからどうしていくのかということも大事だと思いますので、これからも一生懸命やっていきたいと思います。実施するしないとか、自分の決められないことはあまり考えず、今の時点でやれることを最善を尽くしてやっていく、それに尽きると思います。具体的に報告を受けたことについて、こういうふうにしたらいよいよというアイデアはすぐには出てきませんが、引き続き皆さんで頑張っていたいただきたいと思います。

以上です。

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、日本大学松戸歯学部橋口委員のほうからよろしくお願ひします。

○橋口委員

委員の皆さんと同じ意見でございます。どちらにしても、東京大会がどうなるかというのは分からないことですが、今、ここでやれることということでご準備されて、しかも、いろいろな報道の中で、準備をされているのは非常に難しい部分といたしますか、大変なことが多くあろうかと思っておりますので、この7年間の蓄積されたものということをお我々も含めて、共有させていただいて、次の時代に生かしていかなくちゃいけないなというふうに思いました。

せっかく今回のボランティアの方も応募に対しての170名という多くの方々が募集の中で集まっていたということなので、ぜひこういった方々のデータベース化といたしますか、次の機会のところで継続的に、スポーツに限らず、様々な松戸市の発展のために非常に大きな力になろうかと思っておりますので、進めていただきたいなと思っております。

また、今年度で東京大会というところの節目になりますが、アスリートといったところで考えると、北京の冬季オリンピック・パラリンピックもございませし、パラ競技で言うと、バーレーンで10月にアジアユースの大会があります。日本パラリンピック委員会のビジョンとしては、2030年までのビジョンとしては、国内でのアジア大会やアジアユース大会を誘致したいという、オリパラではなくて、アジアのユース大会ということになると、恐らくこういった知見が千葉県と松戸市の中でも多く、今後の将来の選手をサポートするためには、いつかというのはなかなか見えないんですが、いずれこの知見というのが生かされてくると思っておりますので、ぜひ頑張ってくださいなと、私自身も思うと同時に、ご一緒させていただければなと思っております。

あと1点、ご質問なんですけど、今回の受入れのところ、このところで、その他のところで、トレーニングパートナー・練習相手は松戸市では手配しないということで、もちろんあちらの国で用意する、その相手方の検査ですとか、そういう体制というのは松戸市で管理をするということになるんですか。

○事務局

練習相手につきましては、市民を練習相手とすることは避けるようにしてくださいという手引が国から示されておりまして、こちらでは用意ができないということを相手国に伝えました。伝えて、練習相手を連れてきていただくというような形をお願いしています。

○橋口委員

その連れてこられる方も選手団として扱うという形ですね。

○事務局

はい。

○橋口委員

分かりました。ありがとうございます。

○佐々木委員

会場の記載がなくなったんですけれども、運動公園のままですか。

○事務局

運動公園で予定しております。

○西機委員

先ほどの橋口委員の続きとなりますが、2026年のアジア大会が日本開催ですよ。だから、そういう機会はあるという間にやってくるので、そういう点で言うと、いま大変な状況だと思いたすのが、今すぐ動き出してもおかしくないと思いたす。これで7年かかっていたということをお考えれば、その年数かけた分、アジア大会が名古屋で2026年にあるというのは、すごく大きなチャンスかなと思いたす。

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、佐々木委員、いかがですか。

○佐々木委員

自分は昨年から推進会議に参加させていただいて、途中からではあったんですけど、準備してきたものに対して、受入れが減ってしまったとかはちょっと悲しく思ってしまうんですけれども、その中で、それに使う用意していた人員ですとかを、ほかのところではできることを探してやるというのが大前提で、資料5の応援メッセージというのはすごいいいなと感じました。

その中で、レガシーというのをテーマにするとするならば、松戸市の代表するアスリートたちが、市民の心にもっと残ることが、先ほど寄せ書きしてくれた小学校とか、その子たちが憧れて、次、そのスポーツをやりたいというので、どんどん連鎖して育っていくと思うので、こういった取組というのはもっと活発にやってほしいなというのが、自分もアスリートなので、そういう願いがあります。

なので、1本に対して4選手参加させるというのは、撮影の時間とか、アスリートのスケジュールもあるから大変だとは思いたすんですけれども、せっかく撮るんだしたら、さっきの寄せ書きのところをドキュメンタリーみたいにして、その人の選手紹介だけだと、自分もテレビを見ていて、興味を引かないというか、ただ人間味が映るところが多いとその選手を応援したくなるなというのがテレビを見ていて思うので、そういった中で、撮影するというのは、すごい大変なのは分かっているんですけれども、こういったことを継続することと、一人一人重点を置いてあげたほうがいいなと思いたす。あとは具体的に、こう

いうことに興味がない市民の方ももちろんいらっしゃると思うので、その中で、自然に目のつく場所でこういうのが流れていると、より多くの人に選手を知ってもらって、地元のスターをつくり上げるという形で、そういったほうがレガシーというものにつながるんじゃないかなと思うので、発信方法として市の2階に展示しているテレビとか、そういったものを有効活用して、地元の須崎選手とか、自分も自然と名前を結構聞くので、もっと知りたいなというのが単純な自分の思いです。

以上になります。

○長江会長

ありがとうございます。

情報発信の仕方を含めた形で、人柄が分かるような、そういうような動画の作り方も含めて検討していただければと思います。それから、子供たちの先ほどのすばらしい寄せ書きについて、1年生は文字を書くのも大変だとおもいますが、さっき見ましたら、手書きで書いている文字で、金メダルを取ってくださいとか、素直な感情を一生懸命書いていました。そういうものが次の世代を育てていくという点で、いま行っている「夢の教室」を市内で全小学校の5年生にアスリートたちが授業をしてくださったということはすばらしいことだと思います。ホームページもすばらしいんですけども、駅前にあるような、常に市が何をやっているかというのが分かる、そういうようなところを使って情報発信していくという、具体的な事例を含めてアイデアをいただきまして、ありがとうございます。

それとともに、よくお年寄りが見ているコアラテレビであるとか、ジェイコムなど、ネットを介在しないと見れない、というのは、お年寄りは結構大変なので、ケーブルテレビだと見ていたりするので、そういうものを無料で使わせていただくとか、そういうようなことをぜひ検討していただけたらと思います。

それから、自分自身が思ったのは、せっかく聖火のセレブレーションがあるのであれば、いろいろな形で、例えばNHKのニュースにちょっとだけ流れるだけではなくて、同時配信できるようなZoomとか、そういうようなもので同時配信ができるようなもののやり方であるとか、選手の方々との交流が直接接触できないのであれば、それも若い世代の大学、4大学あるので、それぞれZoomか何かで参加してできるような方法とか、今コロナだからこそ発達している方法を通して、大学も対面式の授業もやっておりますが、オンラインの授業もやっておりますので、何か工夫しながら、4大学の学生にもレガシーが残るような方法を実現していただければ、18歳から22歳ぐらいまでの世代の人たちが次の世代を、世界をつくっていくというようなことでつながっていくんじゃないか、広がっていくんじゃないかというふうに思います。

子供から高齢者に至るまで、オリンピック・パラリンピックというものを通

して、何か残るものをしっかりと情報発信できたらいいなというふうに思いますし、それから、やってきたことの記録を残すこともすばらしいことなので、先ほど西機委員のほうからありましたように、経験を伝えていくことのできるよう、事務局だけでなくこの会議の中でもできることをやっていくということも含め、委員の皆さんと一緒に粛々とやっていきたいというふうに、お話を聞きながら思いました。

ご意見、ありがとうございます。

ここで、限られたコロナ禍における会議でもございますので、各委員の皆様方から自由にご意見でしたりご質問があったらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

佐々木委員、よろしく申し上げます。

○佐々木委員

聖火リレーに参加するはずだった170名の方に、今、連絡するというだけ書いてあって、具体的に、断るだけという想定だと思わなくても、せっかく、松戸市の中で一番前向きにオリンピックを盛り上げようと思ってくれた170名の方なので、さっきの点火式、式典の内容がまだ確定していないということなので、その170名の方が優先して参加できるような演目というか、何かをつくってあげてもいいんじゃないかなという、個人的な感想です。

○長江会長

ありがとうございます。事務局のほうではいかがですか。

○事務局

ありがとうございます。170名の思いというのは、やっぱり大切にしたいというふうに市としても考えております。参加に向けて、ほかの行事とか、そういったものに再度申し込んでいただければ、こちらとしてもうれしいということはやはり思っておりますので、そういった思いを伝えるというか、やっていただけるような方策が何かないかというところで検討してまいりたいと思います。パラリンピックの採火式につきましても、内容が固まって、お手伝いいただけるようなことがあれば、またほかの方に発信して、つなげていきたいと考えております。

○長江会長

ありがとうございます。ほかに委員の皆様方からございますでしょうか。

西機委員、よろしく申し上げます。

○西機委員

今おっしゃられたこと、すごく大事だなと思います。大学もこの1年半で、突然オンラインで、やったこともない人が、授業も教員も生徒もやって、そこで双方向でやるやり方というのが難しかった部分もあるけど、対面でできなかったことができたりとか、発言を吸い取ったりとかというようなものができることも分かりました。先ほどおっしゃられた、昔だったら人材確保をデータで

連絡先だけ取って、場合によっては連絡するというのがあったと思うんですけど、クリックして、申し込んで、行動までされた人たちだから、もう少し何か意見を言ってもらったり、その人たちで何かを企画した提案を受けて動き出すような、自発的な行動をされる人たちに機会の提供というのは、必ずしもオリンピックに関わってなくてもいいと思うし、逆にオリンピックだからなのかもしれないし、それは目的が違うと思うんですけども、その人たちの意見とか思いを酌み取って何か形にするというのは、それをしなかったらすごい機会損失になると思います。それをオンラインでできる方法は多分あると思いますし、時期を例えば来年でもいいかもしれませんし、それこそ先ほど言った26年のアジア大会だったりもそうですし、この機会にしっかりと離さずに、どうつなげるかという策は練られたらいいんじゃないかなと思います。

○事務局

行政の立場としては、170人のボランティアさんが申し込んでくれたということが、私たちにどれだけ勇気を与えてくれたかというのがございます。今、マスコミ報道や何かでは、いろいろ厳しい批判もございます中で、松戸市民の方が自発的にボランティアをしてくださったという、その方々の気持ちを大事にしていけないといけないというふうに思いますし、170の方が言ってくださったというのは、これまでの7年間の積み重ねがあったからことなのかなど思っております。いずれにしても、地元のスターをつくるとか、身近にいろいろな人と関わり合いを持っているまちというのがすばらしいまちだと思いますし、オリンピック・パラリンピックということに関しましてもそういうことできるまちであれば、それがすばらしいまちだと思いますので、そういった大きな方向性の中で、気持ちを大事にしていきたいと思っております。まだ事前キャンプも諦めておりませんので、来ていただいたときに、何らかの形で関わっていただくですとか、聖火のトーチも、終わった後で、皆さんにお披露目したりとか、いろいろアイデアを工夫して、とにかく思いを共有できるようにしていきたいと考えております。

以上です。

○長江会長

ありがとうございます。

ほかにございますか。岡本委員お願いします。

○岡本委員

今、初めて厳しいご批判を受けてというお話があったんだけど、これまで頑張ってくれたなと思います。

○事務局

ありがとうございます。

もう一つ言わせていただきますと、それはオリパラ課だけではなくて、関係課や関係団体などのいろいろな方に支えられて何とかここまでやってこれたと

思っております。それをまたつなげていけるようにレガシーにしたいなと思っております。

○長江会長

ありがとうございます。

ほかにございますか。

○西機委員

もう一点、施設やハード面について、スポーツの環境が必ずしも松戸は充実していると言えないというような最初のお話だったと思うんですね。その部分は、ハードにお金をかけるというのはなかなか難しいと思うんですけど、例えば先ほど動画を撮ったりとか、シェアしたりという、要するに情報発信とスポーツに関する関心を得るという、スポーツをハブにして、人の求心力と、それから何か発信していくという仕組みづくりで言うと、ちょっと私、不勉強ですけど、松戸市として、スポーツの情報をポータルサイトというか、何かその辺の情報発信を集めて発信したりやる機能が果たしてあるのかどうかというのをおもいました。どうしても市役所の情報というと、施設の予約の部分とか、ホームページのところで、今回こういうイベントがあるというふうになって、スポーツ以外のことも含めて、地域の人をつなげるための仕組みというのは、ハード面じゃなくて、そういう情報の部分で、先ほど長江先生は、デジタルじゃなくて、当然回覧板も含めて大事だとは思いますが、今回思い切って、これをデジタル化したりなど、ただのコンテンツだけではすくもったいななというふうに思いました。

○長江会長

そこら辺はいかがでしょうか。

○事務局

スポーツに関して言えば、オリンピック・パラリンピックに限らず、松戸市は専修大学松戸高校がこの間、甲子園に行ったりとか、いろいろなスポーツの活動があります。佐々木元選手のように活躍されている方もいらっしゃいますし、さっき言った地元のスターというところですか、それをいかに身近に感じられるかということ工夫していきたいと思います。いろいろな局面があるんですが、そこら辺の情報発信はさらに磨きをかけていきたいと思います。

○長江会長

ポータルサイトみたいなのはあるんですか。

○事務局

今回のオリンピック・パラリンピックという関係ではないんですけども、今、うちの事業の中で考えれば、ゆかりの選手ということで、そこがハブになって、陸上競技をやる人だとか、レスリングの競技をやる人という形になってくるかと思いますが、西機委員の言うような目指す姿には至るものではないというふうに思います。なので、そこはまだ研究が必要になってくるかどうか

などと思います。

ただ、例えば佐々木選手に協力いただいて、文化観光国際課でやっている事業の中で、外国人向けのPR動画といった中に、自転車で演じていただいているとか、そういった協力の中で、いろいろな市の事業の紹介の中で協力いただいているので、スポーツという視点に着目して発信していくような取組が今後できれば、もっとスポーツに親しむ人が増えるだろうし、興味を持つ人が増えると思っています。例えばラグビーのワールドカップでは、あれだけみんながルールも知らない中で興味を持って盛り上がった。そういったことにつながっていくと思いますので、何かそういうことができるように、考えをまとめながら取り組んでいきたいと思っています。

○西機委員

私もこの場での思いつきで言ってることもあるので、でも、自治体でその辺をモデルになって発信しているところって、今思うと、あまり事例はないなと思ったんです。でも、それって海外へ行くとすごくあるなというのがあって、だから地域のスポーツ情報の発信というものをもうちょっとする仕組みを、恐らくやっている自治体はあると思いますが、何か先進的にされたらいいのではないかと思います。私もモデルがもしあれば探したいなと思います。

○事務局

一宮のサーフィンだとか、町を挙げて一つのスポーツにというような事例はあるのかなと思います。そういったところを参考にしたいと思います。

○薄葉委員

スポーツチームがあるところとかですね。

○事務局

そうですね。

○長江会長

それと、この7年間で運動公園の整備であるとか、様々、進んだと思います。最初の頃と比べると、どのぐらい、どういうところを改修してよくなったというところの情報を、市民の人が活用できる場所なので、アスリート情報とか、それから身近な健康維持というところのレベルで、みんながもっとスポーツに親しむことによって健康、長寿、それこそ健康寿命を延ばすまち松戸みたいな形で情報発信をしないともったいないと思います。今回随分整備をされたところをいかに生かして、市民の方に知っていただき、利用していただくかというのは、もちろんスポーツ協会さんのほうでもされていると思うんですけども、ぜひこの推進会議も含めて検討して、それが未来につながるレガシーだと思います。次の選手もどんどん生まれてくると思うので、そこら辺の情報活用をしていただければ、若い世代だけじゃなくて、シニアとか、あるいは高齢の記録を出す人も出てくるかもしれませんので、ぜひ底辺を広げる運動をしていったらいいんじゃないかなというふうに思います。

歩くだけでなく、筋力トレーニングをしないと、コロナ禍でお年寄りが家の中に引き籠もると何が起きるかという、転倒骨折が起きちゃうんですね。太陽に当たらないせいもあるかと思いますが。そして、骨折してしまうと寝たきりになってしまうので、リハビリで大腿骨や何かを骨折した場合に復帰するのはかなり難しいということもありますので、何かうまい情報発信ができるのかなというふうに思います。

ほかによろしいでしょうか。

それでは、事務局のほうから何かございますでしょうか。

委員の皆様からは、最後、よろしいでしょうか。

それでは、約1時間の会議がございましたが、活発なご意見、ご質問いただき、オリンピック・パラリンピックに関しましては、粛々と進めていき、そして、レガシーをしっかりと残す方向性で進めていただけたらと思います。

次回の会議につきましては、決定しましたら、改めて通知させていただきます。

本日は貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございました。

以上でございます。